

本日の講義で、新たな発見・新たな気づきは何かありましたか？ あった場合は、具体的にどのような発見・気づきであったか記載してください。

ATを事業として回していくために、コーディネーター、ガイドが重要だと改めて感じました。

価格設定に差をつけるという考えが無かったので、参考になりました。

国立公園を中心とした観光で、多くの事例が生まれていること。

本日の講義で、自地域の政策に何等か取り組めるヒントを得ることができましたか？ あった場合は、具体的にどのような点が政策のヒントになりましたか？

ATでは無いですが、本市の地域資源を活かした体験型観光商品の造成を検討しています。

ATにおける手法がそのまま応用可能だと思いました。

観光ガイドの養成方針について、量より質を意識しながら外部の人材も活用していくこと。

<p>わからなかった点、疑問や質問、ご意見など自由に記載してください。</p>	<p>回答</p>
<p>・ATの推進による農家や漁師へのメリット、デメリットはどのようなものが考えられるのか？</p>	<p>地域によって、また、どのようなATを行うかによって変わってくると思いますが、一般的なメリットとしては、傷みやすく市場には出せない自家消費だった魚がATの高付加価値料理として商品となるなど、新たな収入源となる可能性があります。(農産物・林産物(キノコ類等))</p> <p>また、生業としては農家や漁師であるが、地域住民として日頃食べている料理をATに提供できる可能性も考えられます。</p> <p>デメリットとしてはすぐに思いつきませんが、常に改良の視点でマイナスだったものが新しい価値に転ずるケースもあるでしょうから、デメリットはゼロに近づけ、メリットはゼロからプラスに持っていく視点が加わると良いのではないかと思います。</p>
<p>・AT利用者の期待に応えられる地元の飲食店、宿泊施設を増やすにはどのような工夫が必要になるのか？(変化についていけない地元業者が多く出てくるのではと感じている)</p>	<p>生業に関係するものですので、変化していこう／変化はしないというのはそれぞれの経営戦略であり、行政が無理やりそこに介入するのは難しいですが、今まで事情がありマス対応できなかったのが、観光は考えていなかった飲食店や宿泊施設も、少人数観光であれば対応できるケースも考えられます。</p> <p>単に施設を増やす(資金投資が必要)のではなく、少人数でどのような高付加価値が提供できるかを考えてみるアプローチも有効と考えます。</p>
<p>今後、世界的にも企業が気候関連財務情報や自然関連財務情報を開示していく流れになっていくと思われそうですが、そのことで、優良企業に対し自治体としても取り組むべきことは何かありますか？</p>	<p>表彰制度は有効であると考えます。良い切磋琢磨を提供するべく自治体を取り組めるメニューはほかにもあると思います。</p> <p>より踏み込むとするならば独自条例による減税など、経済的なインセンティブを用いる方法も考えられますが、これまでの環境行政を推進するにあたってのインセンティブは、いろいろな例が調べると出てくると思いますのでご参考になさってください。</p>
<p>ディスカッションの中で、ガイドやコーディネーターを育成し、ATを推進していくためには、地元住民が自分たちの地域の魅力を再認識することも大事であるという話ができました。当市では今まで観光に力を入れておらず、地元住民も観光を進めていく認識は薄いです。同じように地方では「うちのところは何も無い」と地元に住み続けているが故に魅力に気付いていないことが往々にしてあると思います。外の人がいい地域であると感じてもらうためには、地元住民が誇りに思えるような勉強会やイベント等、住民を巻き込める仕組みづくりが大切であると感じました。</p>	<p>おっしゃる通り重要な視点だと思います。</p> <p>観光という文脈から入るのではなく、住みやすい街、訪れやすい街とはどのようなものなのかという切り口からまずは住民の方々による議論や、移住者の視点などを上手く取り込んでいけば、自ずとそれがATにも活用できるのではないかと思います。</p>